

水鳥を通じて見る琵琶湖流域

村上 悟

2001. 8. 22 淀川水系流域委員会琵琶湖部会

1. はじめに

1. 1 鳥類の特徴

- 生活の空間スケールが広い
- 複数箇所の生息地をもつことが多い

→ある鳥類が生存しているということは、その生存に必要な条件がすべてそろっていることを示すので、総合的な環境指標となる

- 人間にとって親しみやすい、目につきやすい

→低コストで継続的な調査が可能

1. はじめに

1. 2 さまざまな「水鳥」とその生息環境 (特に河川中～下流域において)

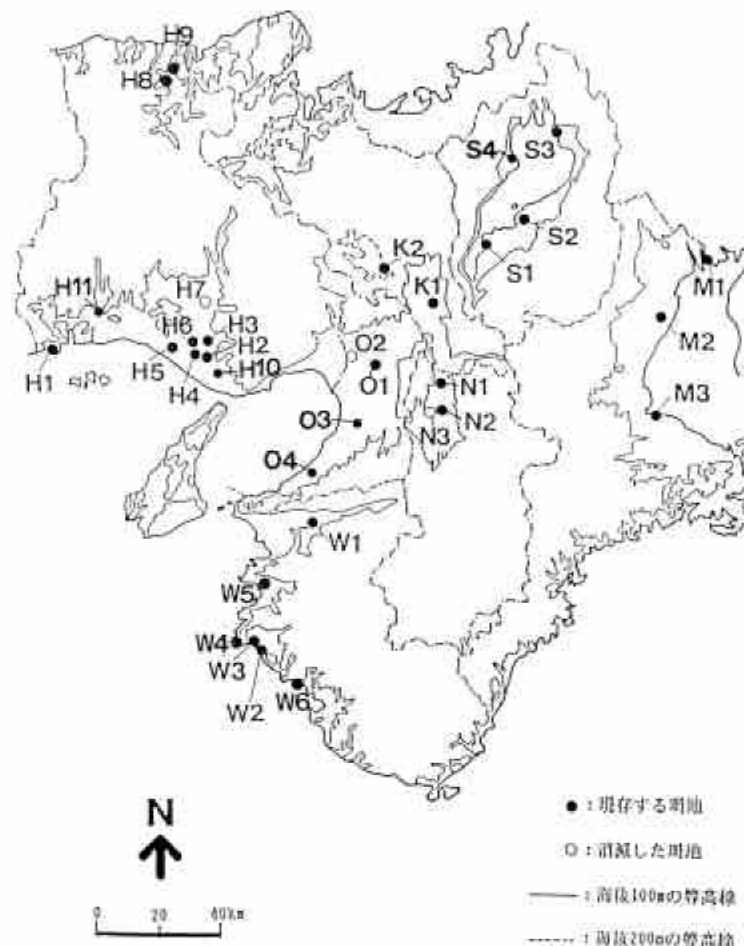
	水禽 	渉禽 	陸禽 
	カモ カイツブリ など	サギ シギ チドリ など	猛禽類 小鳥類 など
生息環境	水面, 水草帯	水面, 浅瀬, 砂利	ヨシ原, 河畔林
食物	魚, 貝, 水草, プ ランクトンなど	魚, 貝, 虫, 水草な ど	魚, 鳥, 虫, 植物 の種など

2. 野鳥にとってのヨシ原

2. 1

ツバメの集団ねぐら

- 琵琶湖周辺に
4箇所
- 淀川にも存在



滋賀県内で確認された ツバメの集団ねぐら地



図5-3d ツバメの集団ねぐら地の形成範囲
(S1: 須賀山公園)



図5-3c ツバメの集団ねぐら地の形成範囲
(S2: 馬川新田基本地区)

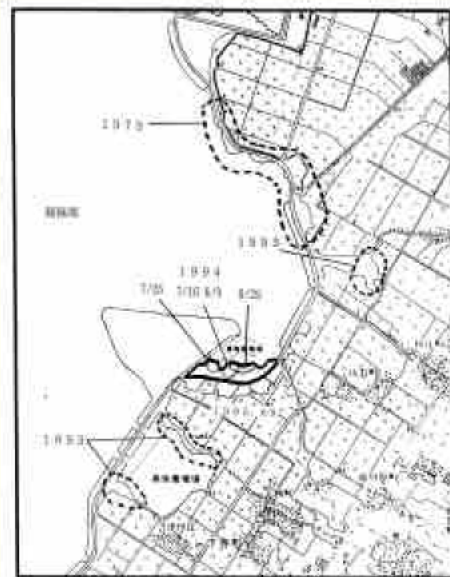


図5-3a ツバメの集団ねぐら地の形成範囲
(S1: 赤野山公園(赤野山))



図5-3b ツバメの集団ねぐら地の形成範囲
(S2: 近江八幡市の南西)

深溝内湖

湖北水鳥
公園湖岸

赤野井湾

西の湖

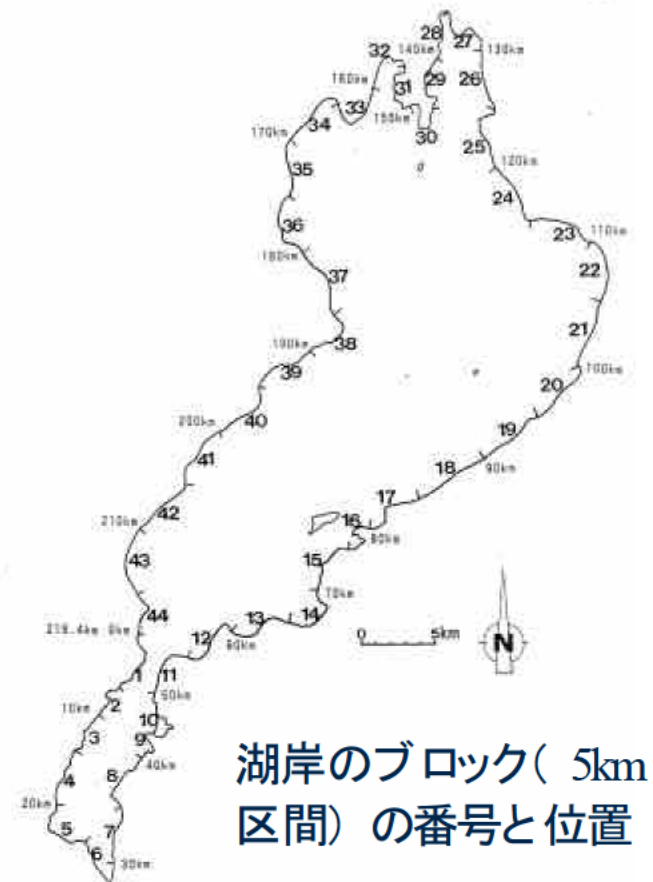
引用: 須川恒(編) (1996) : 平成7年度琵琶湖水鳥総合調査報告書. 155pp. 琵琶湖水鳥研究会・滋賀県自然保護課

2. 野鳥にとってのヨシ原

2. 2 ヨシ原の規模 と野鳥の繁殖

- ヨシ原が一定規模にならないと、ヨシ原で鳥類が繁殖できない

(表 1)



3. 野鳥にとっての河川

『滋賀県探鳥地百選 探鳥地ガイドブック』

(口分田正博編. 1995, 277pp. 滋賀県自然保護財団) に掲載されている河川

- ・ 高時川中流 (井明神橋～阿弥陀橋)
- ・ 姉川河口
- ・ 天野川河口
- ・ 犬上川河口
- ・ 愛知川河畔林 (御幸橋～八幡橋)
- ・ 新野洲川
- ・ 安曇川河口
- ・ 知内川河口

多様な野鳥の生存条件

- ・ 河畔林がある
- ・ ヨシ原がある
- ・ 浅瀬がある

4. 東アジアの中の琵琶湖

4. 1 オオヒシクイ

- 大型ガン類の一種で天然記念物、準絶滅危惧亜種
- 最近百～数十年で生息地が狭まり、琵琶湖は南限渡来地となった
- 主な食物はヒシの実、マコモ、落ち稲
- 冬季の水位が高いと個体数が減少する傾向



オオヒシクイの国内の渡りルート

4. 東アジアの中の琵琶湖

4. 2 1%基準

- ラムサール条約の登録湿地となる基準の中に、「20000羽以上の水鳥が渡来すること」もしくは「ある個体群の1%以上が渡来すること」というものがある。
 - 琵琶湖は20000羽以上が渡来する。コハクチョウ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、ホシハジロ、キンクロハジロが1%基準を超えている。（表2）
-

5. 人との摩擦

5. 1 カワウ

- 1982年に竹生島で5巢の繁殖を確認以来、爆発的に増加。近年は1万羽前後で推移。
 - エリ漁をはじめとする漁業への影響がある
 - また、竹生島や伊崎不動の森林が破壊され、景観上からも問題となっている
 - 反対に県鳥であるカイツブリは減少している。これは外来魚の影響などで琵琶湖内の魚種が大型化したためではないかと想像できる。
-

5. 人との摩擦

5. 2 サギ類

(コサギ、チュウサギ、ダイサギ、アマサギ、ゴイサギ、アオサギ)

- 河畔林にサギのコロニーが形成されることが多い
— 愛知川、犬上川、野洲川(旧河道)、安曇川 など
- 近隣住民にとっては鳴き声や糞が迷惑
- また、田植え直後の水田を荒らす害が出ている
— 稚苗を植えるようになったこともその一因であると思われる



伐採される



コロニーが転々とする

表1 ブロックの最大面積ヨシ群落の特性と鳥類各種の繁殖ペア数（1993～95年の調査結果より）

ブロック番号	ブロック名	調査群落番号	ヨシの起源	開水面	形状	幅 [m]	延長 [m]	面積 [㎡]	繁殖ペア数								繁殖種数	ペア数計
									カ イ ツ ブ リ	カ ン ム リ カ イ ツ ブ リ	サ カ ノ ゴ イ	カ ル ガ モ	バ ン	オ オ バ ン	オ オ ヨ シ キ リ	サ サ ゴ イ		
1	堅田	3S08	1	1	1	13	80	1040	2						2		4	
2	雄琴	5S07	1	1	2	70	570	39900	6		1	2	19		4		28	
3	阪本	5S06	1	1	1	14	340	4760	5		1		2		3		8	
4	唐崎	5S05	1	1	2	13	90	1170	1				1		2		2	
7	矢橋	4S05	2	1	1	20	230	4600	1			1	7		3		9	
8	志那	5S02	2	2	1	20	200	4000	3			1	6		3		10	
9	津田江	5S03	1	1	2	30	220	6600	3			2	5		3		10	
10	赤野井	4S07	1	1	2	150	640	96000	10	1	2	1	3	9	26	7	52	
11	木浜	5S04	1	1	2	10	130	1300	1			1	1		3		3	
12	野洲川	5E01	1	1	2	7	60	420					1		1		1	
13	日野川	5E02	1	1	2	10	3	30							0		0	
14	牧	4E02	1	1	1	40	160	6400	3			4	13		3		20	
17	愛知川	3E03	2	1	3	10	275	2750	1				8		2		9	
18	石寺	5E03	1	1	1	10	550	5500	1		1				2		2	
22	田村	5E06	1	1	2	12	60	720							0		0	
23	長浜	5N01	2	2	1	10	250	2500	1				1		2		2	
24	八木浜	5N02	1	1	2	6	320	1920	3			1	1	6	2	5	13	
25	延勝寺	5N04	1	1	2	80	400	32000	6		2	1	2	13	5		24	
31	菅浦	5N05	1	1	1	1	200	200							0		0	
32	大浦	5N06	1	1	2	3	140	420	1			1			2		2	
35	浜分	5W03	1	1	1	10	180	1800	2						1		2	
36	今津	4W02	1	1	1	20	300	6000	9				3	5	3		17	
37	新旭	5W02	1	1	1	30	450	13500	1				1	12	3		14	
38	安曇川	5W04	1	1	2	35	300	10500	7				4	1	3		12	
44	和邇川	5W01	1	1	1	30	600	18000	2			1	2	10	4		15	
ヨシ群落は44ブロック中 25ブロックにある						確認ブロック数			21	1	1	5	5	13	19	1	8種	
						確認ペア数			69	1	2	6	7	33	139	2	259ペア	

- ・ヨシの起源（1:自然,2:植栽）
- ・開水面との関係（1:通常水位で接する,2:通常水位では接しない）
- ・群落の形状（1:帯状,2:他の形状）

表2 琵琶湖のガンカモ科水鳥の個体数とラムサール条約の基準

種(亜種) ※希少種 ○狩猟鳥	1%基準個体数		滋賀県 琵琶湖 672.8km ² 1989, 94年 須川編1996	判 定	滋賀県 琵琶湖 672.8km ² 1999年 2月7日	判 定
	東アジア 個体群	日本の 越冬数				
オオハクチョウ	300	300	6			
※コハクチョウ	300	260	300	◎	155	
※亜種オオヒシクイ	1,000	50	390	○	118	○
※亜種ヒシクイ	750	50				
※マガン	500	300	20			
※コクガン	50	40	1			
※ツクシガモ	600	10				
※オシドリ	500	190	58		50	
○ヒドリガモ	10,000	1,700	14,600	◎	10,205	◎
○ヨシガモ	10,000	90	1,200	○	182	○
オカヨシガモ	1,000	150	5,960	◎	640	○
※トモエガモ	1,050	12	1		20	○
○コガモ	10,000	1,900	1,790		1,661	
○マガモ	20,000	5,000	8,670	○	1,720	
○カルガモ	10,000	2,200	3,570	○	2,116	
○オナガガモ	10,000	2,000	930		864	
シマアジ	10,000	—				
○ハシビロガモ	10,000	210	440	○	448	○
○ホシハジロ	10,000	1,800	25,320	◎	4,494	○
○キンクロハジロ	10,000	800	13,480	◎	7,562	○
○スズガモ	10,000	1,800	330		112	
コケワタガモ	10,000	—				
※シノリガモ	1,000	31				
コオリガモ	10,000	27				
○クロガモ	10,000	110				
ビロードキンクロ	10,000	5				
ホオジロガモ	1,000	40	70	○	52	○
ミコアイサ	1,000	20	440	○	42	○
ウミアイサ	1,000	50	170	○	29	
カワアイサ	1,000	50	90	○	134	○
ガンカモ科個体数	20,000	10,000	78,000		30,604	
基準による判定	国際的基準を越える ◎		5種		1種	
	国内的基準を越える ○		9種		10種	

[判定] ◎：国際的基準を越えるもの／○：国内的基準を越えるもの

[注]

- ・東アジア個体群の1%基準値は東アジア地域ガンカモ類重要生息地ネットワークの資料による。
- ・日本の越冬数の1%基準値は、ガンカモ科鳥類全国一斉調査(環境庁1998)の全国の越冬数について、最近5年間(1994-1998年)の平均値の1%の値。
環境庁自然保護局野生生物課、1998、第29回ガンカモ科鳥類の生息調査報告書、環境庁、東京、345pp.
- ・1999年2月7日のデータはワールド・ウェットランド・デイin琵琶湖における取り組み『琵琶湖一周水鳥カウトライブ』の結果(滋賀県提供)、種名ミスとみられる種は除いてある。またガンカモ類の総数は種不明個体を除く。